メルボルン大学とのジョイントワークショップを開催

理学研究院の上野貢生教授は、メルボルン大学のクリストファー・ホール博士と共同で、3月3日（月）～4日（火）にメルボルン大学において「Photochemistry, Nanophotonics, and Smart Materials」をテーマにした共同ワークショップを開催しました。本ワークショップは、北海道大学とメルボルン大学間での国際研究協力を深めることを目的としており、双方の研究者が集まり、最新の研究成果を発表し、今後の共同研究に向けた意見交換を行いました。

本ワークショップは、北海道大学・メルボルン大学合同研究ワークショップファンドの支援を受けて開催されました。この助成金により、研究者間の活発な議論や共同研究の基盤を築く貴重な機会を得ることができました。この場を借りて、ワークショップファンドに対して深い感謝の意を表したいと思います。

ワークショップには、理学研究院や情報科学研究院から教員4名、また、総合化学院や情報科学院から博士課程学生5名が参加し、それぞれの研究成果を発表しました。メルボルン大学側からは、ホール博士をはじめとする研究者たちとともに、双方の研究者たちが互いの専門領域について知見を深め、協力関係を築くための貴重な場となりました。本学からは、理学研究院の教員や情報科学研究院の教員が最先端の研究結果を紹介し、また、総合化学院や情報科学院の博士課程学生が国際的な舞台で研究発表を行い、英語での発表や質疑応答を通じて、国際的な研究者としてのプレゼンテーション能力を高めることができました。

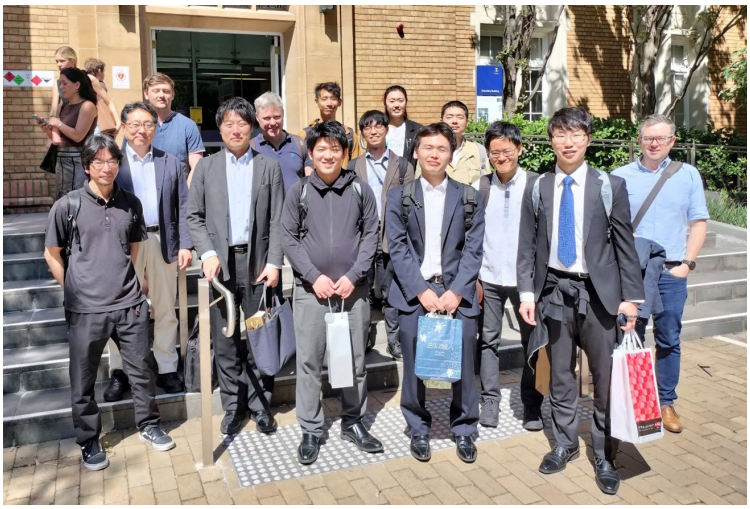
ワークショップでは、共同研究の方向性についても具体的な議論が行われました。研究サンプルの交換や共同実験、さらには国際的な研究助成金の申請に向けた協力体制について、詳細な話し合いが進められました。これにより、両大学間での共同研究の基盤がさらに強化され、今後の研究活動を進めるための具体的なステップが設定されました。特に、日本学術振興会助成金などの国際的な研究助成金の申請に関しても協力し、共同研究を推進するための資金調達を目指しています。

参加した北海道大学とメルボルン大学の研究者たちは、今後さらに連携を深め、共同研究を進展させることに強い意欲を示しました。これにより、両大学間での共同研究が一層進展し、将来的には国際的に発信できる研究成果を生み出すことが期待されます。

（理学研究院・理学部）

北大側代表の上野教授（左）と
メルボルン大学側代表のホール博士（右）

オープニングリマークスを行うホール博士



化学科の前での記念撮影